

平成29年度
事業決算報告書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

公益財団法人 平群町地域振興センター

目次

〈基本方針〉

I スポーツを通じて平群町民の健康増進の普及及び健康づくりを促進する事業(公益目的事業1)

- 1 事業報告
 - 1)健康サポート・地域コミュニティ支援事業(コミュニケーション)
 - 2)子ども体力向上事業(発育スキルアップ)
 - 3)健康体力づくり事業(健康保持増進)
 - 4)元気 UP 高齢者事業(健康保持増進)
- 2 町有施設(体育/公園体育施設)指定管理事業

II 地域文化の振興を促進する事業(公益目的事業2)

- 1 事業計画

III 農業の健全な発展及び地域資源の合理的な利用を推進する事業(公益目的事業3)

- 1 事業計画
- 2 町有施設(活性化センター)指定管理及び道の駅施設受託管理事業

IV スポーツ施設及び農業発展施設並びに地域資源の合理的な利用促進施設を管理運営するために生じる関連物品の販売(収益等事業1)

- ・その他

V 理事会議決事項並びに認定報告事項

VI 行政機関届出事項

VII 役員名簿(平成 30 年 3 月 31 日現在)

事業決算報告

- ・貸借対照表及び貸借対照表内訳表
- ・正味財産増減計算書及び正味財産増減計算書内訳表
- ・財務諸表に対する注記
- ・附属明細書
- ・財産目録

〈基本方針〉

平群町地域振興センターは、平成5年設立当初より寄附行為(※定款)第3条(目的)並びに第4条(事業)の規程に基づき事業活動を行い、設立24年目を迎えた。平成25年4月に「公益財団法人」へ移行後、より一層地域に根ざした公益性、公共性を発揮していくという明確な活動理念及び目的のもと運営を行った。あわせて、平群町と連携し地域住民や各団体と相互補助の関係を築き「地域づくり」、「地域貢献」、「地域還元」を達成するため積極的に振興事業の展開を実施した。

町有施設の管理においては「指定管理者」として3期目(12年目)の最終年度を迎え、町より受けている管理権限の委任や公共性を最大限に発揮し、地域が求める住民サービスの向上に一層の充実を図り、各施設の設置目的にあった管理運営を行った。

体育施設、公園体育施設及び公園施設の管理運營業務は、「平群町」の地域社会における文化及び体育活動の意識向上と基盤整備した振興事業を行い、更なる平群町民の生活・健康・文化的水準の向上を図った。また、既存の文化、体育施設を拠点としながらその機能を十分に生かした多角的且つ合理的な利用方法の構築・追及を行った。そして、円熟化社会を迎え、複雑化、高度化、多様化する利用者及び行政からのニーズを的確に捉え、それらを柔軟・迅速に対応した。

活性化センター運營業務は、生産者と地域住民が地域農業についての共通理解を深め、農産物の消費拡大と地域農業の情報発信の拠点、また、全ての利用者に平等の利用を提供し、様々な人々が集まり“笑顔が溢れる地域振興の拠点”を目指して、施設の役割や利用状況に即した施設のあり方を考え、公の施設の効果的な管理運営を定めるため、これまでの管理運営実績を踏まえ、ノウハウを最大限に発揮した。

I スポーツを通じて平群町民の健康増進の普及及び健康づくりを促進する事業(公益目的事業1)

1 事業報告

総合スポーツセンターが、地域住民のライフスタイルの中で様々な活動拠点となり、「健康サポート・地域コミュニティ支援事業」、「子ども体力向上事業」、「健康体力づくり事業」、「元気UP高齢者事業」の4部門を自主事業の基幹部門として、それぞれの参加者に支援を行った。これまでの実績をもとに地域の子どもから高齢者まで、幅広い世代に運動参加やその他の目的でスポーツセンターを有効利用してもらえるように、多岐にわたるプログラムや事業を計画して参加者の増加につなげて振興事業の拡充を図ることを目的に開催した。また、振興センターの自主新規事業の充実を図るとともに、平群町スポーツ振興の施策の一つである総合型地域スポーツクラブ「くまがしクラブ」と協力したスポーツ振興事業等に注力し、健康づくりを推進した。

1) 地域住民や利用者ニーズの把握及びそれに伴う事業展開と業務の実施

利用者ニーズを正確に把握するため、ひとつでも多く要望を受け取る体制を構築するとともに、収集した情報の分析・検討を行い、あらゆる角度から実現の可能性を模索し事業展開を行った。

2) スポーツ・健康づくり活動ができる仕組みの構築

総合スポーツセンターが、運動・スポーツ・健康づくりの拠点となり、スポーツを通じた交流の環境づくりに努め、地域でもスポーツ・健康づくり活動ができる仕組みを構築し、地域の公共団体・運動クラブと連携しながら、全ての地域住民や利用者を明るく元気にする共催事業展開を図った。

3) 効率・効果的な事業運営の推進

これまでに蓄積した経験とノウハウを活用することにより、機動的かつ柔軟なサービスを提供し、公共施設の指定管理者として、地域性を活かした効率・効果的な事業運営を行った。

4) 安全・安心・快適な施設空間の創出

交流の場として、利用者とのコミュニケーションを図り、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる施設環境整備を行った。

5) お客様本位の視点にたったサービスの提供

お子様から高齢者の方々まですべての利用者の皆様を平等に、感謝の気持ちを込めてお客様の立場にたった心のこもったサービスの提供を行った。

6) 地球にやさしい施設管理

利用者自身の環境などへの社会的責任意識(エコ等)の高まりをサポートする取り組みを企画し、実施した。

1) 健康サポート・地域コミュニティ支援事業(コミュニケーション)

スポーツセンターを基本拠点とし、「トレーニング室運営の充実」をより一層図るため「健康体力総合事業」と位置づけ、既存の機器を有効に使用し、幅広い年齢層の利用者を対象にトレーニング・運動指導のサービス提供を行った。また、高齢化が進んでいる平群町において、「健康長寿県内一」ということが町の大きなテーマとなっていることから、スポーツセンターだけに捉われず、平群町・平群町近隣町・自治会・長寿会・平群町社会福祉協議会・小地域ネットワーク・体育協会クラブ・地域で活動しているスポーツ団体・文化協会、長寿会等から依頼を受けた際、従業員を講師として派遣し、広く町民や地域住民の健康増進を図るとともにコミュニティの強化・強固な関係づくり、健康づくりや健康向上地域住民の健康サポートを行った。

クラブ・地域

(総合型地域スポーツクラブ「くまがしクラブ」運営・地域団体との共催事業の拡大)

全国・奈良県内で設立されている地域スポーツの拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」

(くまがしクラブ)の運営を町行政や体育協会と協働し事業を実施した。また、地域の公共的団体・運動クラブと連携しながら共催事業を実施した。

事業名		目的・内容	実施時期
健康体力総合事業	トレーニング講習会	トレーニングに関する知識と、施設利用に関する説明、機器の使用方法を指導し、受講者に登録証を発行。受講者 162 名。受講料 1 回 300 円。累計登録者数 5,218 名（内訳、平群町内登録者数 5,077 名、生駒市登録者数 55 名、町外登録者数 86 名）40 分/回。	通年 (70 回開催)
	アプローチ、プログラミング、カウンセリング	トレーニング室内に従業員を常時配置し、利用者が効率良くトレーニング出来るように、アドバイスやトレーニングプログラム作成のサポートを行った。	毎日
	パーソナルトレーニング（個別指導）	一人ひとりのからだの状態のチェックを行い、機能改善を主に、個別指導を行った。受講者 66 名。	週 1 回
	トレーニング室プログラム	トレーニング室利用者向けに各種トレーニング教室やプログラム、FMS 測定を実施した。受講者 45 名。	月 1 回程度 (12 回開催)
	健康チェック	平群町健康保険課等と協働し、血管年齢測定等を実施し、トレーニング室利用者の定期的な運動効果等を診断。受講者 53 名。	5 月、9 月、1 月 (年 3 回)
	健康セミナー	管理栄養士や専門性の講師を招いて、食事と運動等に対する講義等を開催した。受講者 66 名。	6 月、10 月、11 月、2 月 (年 4 回)
ニュースポーツ普及事業	ニュースポーツの体験を、実践ゲーム形式で実施。地域自治会と協力しながら普及推進を行った。平群北小学校で開催された第 6 ブロックの「カーリング」、「スカイクロス」をメイン種目とした“スポーツ交流会”に参加協力。参加者 121 名。	6 月、11 月 (年 2 回)	
運動講師派遣事業 (スポセン健康宅配便)	平群町及び地域住民・団体より健康保持増進を目的とした運動講座の依頼に講師を派遣し、運動指導を実施した。7 月生駒郡幼児教育研究会→参加者 30 名、9 月食生活推進委員会→参加者	通年	

	<p>7名、9月上庄小地域ネットワーク→参加者30名、11月はなさとこども園→参加者40名、3月初香台自治会→参加者57名、3月緑ヶ丘自治会→参加者57名、3月上庄自治会40名。</p> <p>◆地域包括協力講師派遣※へぐりいきいき100歳体操</p> <p>7月御陵苑自治会→参加者25名、7月春日丘自治会→参加者25名、9月ウォーキング講習会→参加者18名、11月西宮自治会→参加者25名、1月長寿会→参加者15名、1月竜田川ネオポリス長寿会→参加者15名、2月全大会→参加者71名、2月椿台自治会→参加者22名、2月緑ヶ丘自治会→参加者37名、3月菊美台自治会→参加者22名、3月初香台自治会→参加者30名。</p> <p>◆平群町長寿会協力講師派遣</p> <p>6月体力測定→参加者60名、7月女性部合同研修会→参加者60名、11月体力測定→参加者40名。</p>	
ラジオ体操会	<p>昨年同様に町子連カーニバルにて参加者全員に「WP半額及び無料入場券」を配布した。(半額入場券400枚配布→使用実績129枚。無料入場券20枚配布→使用実績4枚。</p>	6月
くまがしフェスタ	<p>くまがしクラブを主体に体育協会や他の団体と協力しながら抽選会を開催した。参加者252名。</p>	11月
ふれあいマラソン大会	<p>平群町教育委員会、スポーツ推進委員会、体育協会と共に実行委員会を形成し、平群町内に3つのコースを設けマラソン大会を実施した。参加者380名。</p>	3月
キッズフェスタ	<p>未就園児と親子対象の運動遊びの内容で開催される子育て支援センターの事業「親子DEうきうきタイム」に実行委員として、大縄跳びの協力を行った。参加者200名。</p> <p>奈良県フットサル連盟協力により、地域住民がファミリーで参加できる「ファミリーフットサル大会」を開催した。参加者152名。</p> <p>運動やスポーツに関心を持ってもらうことを目</p>	6月、9月、3月 (年3回)

	的に、生駒市体育協会所属生駒少年ラグビースクール協力により、「ラグビー交流イベント」を開催した。参加者 140 名。	
キッズガーデニング	管理施設である平群中央公園で、地域とのつながりを目的に、平群町立はなさとこども園の園児と従業員と一緒に植栽や軽度の手入れなどの作業を通じて、公園を身近に感じてもらう取り組みを実施した。参加者 25 名。	6 月
地域クラブ支援事業 (スポセン健康サポート事業)	平群町体育協会とかんぼの宿へぐりの協力でグラウンドゴルフ大会を開催した。参加者 49 名。	7 月
	地域クラブや町民の交流を目的に、バンビシャス奈良や奈良クラブ等の協力により「平群スポーツフェスティバル」を開催した。参加者 200 名。	7 月
	くまがしクラブと協力で、「ノルディックウォーキング交流会」を開催した。参加者 18 名	10 月

・かんぼの宿大和へぐり・信貴山観光ホテルとの共同事業

かんぼの宿大和へぐり及び信貴山観光ホテルと連携し「合宿プラン」を展開した。

町外のスポーツクラブ・有志のサークル等の団体が合宿等で、かんぼの宿大和へぐり又は信貴山観光ホテルと体育施設や公園体育施設を合わせて利用される際に、事前施設予約及び町内料金で利用できるプランを提供した。

グラウンドゴルフ、バドミントン、軟式野球、卓球等、13 件/年間の利用があった。

2) 子ども体力向上事業(発育スキルアップ)

平群町総合計画において「緑豊かで心豊かな 子どもの歓声が聞こえるまち」が掲げられている。この少子高齢化時代において、子どものからだの成長は変化の時代をむかえ、からだは大きく成長するが運動能力の低下は著しい。子どもの基礎体力向上のための体育振興事業の展開を実施し、町内こども園の園児たちへの運動指導、健やかで元気な身体づくりを行い、より健やかに成長してもらえるように、ジュニア期の運動教室を展開しながら平群町の子どもたちの体力向上を図った。

子どもの成長にあわせた運動プログラム計画(キッズ・ゴールデンエイジ)

キッズエイジ(U-6)には、将来の運動能力を左右する基礎運動能力(からだづくり)を高め、成長期に備えていくこと、特にからだの成長にあわせた運動の種目と内容を選定するこ

とが大切であり、「走る」・「跳ぶ」・「投げる」・「蹴る」等の基本動作をこの期間にからだを動かして身に付けさせていく。小学校(ゴールデンエイジ時代)の年齢にあつては、様々な運動や体験に触れることを重視して技術の習得やより効率的にからだを動かすための技能習得が最も重要である。

成長過程と呼び名

- ・キッズエイジ 3歳～5歳 今後への準備期間、6歳～8歳 神経回路成長
- ・ゴールデンエイジ 9歳～12歳 神経系発達完成、13歳～14歳 速筋繊維発達

成長に応じた運動効果

- ・からだの基本動作習得・バランス・調整力向上・体力向上・けがの予防・将来的な競技力向上・技能向上。
- ・キッズエイジ(U-4～6)(キッズスクール)
幼児期のからだづくりの基本的動作となる体操やボールを使用した運動を実施し、からだの効果的な動かし方を身につけさせることを目的とする。
- ・ゴールデンエイジ(U-12)(ジュニアスクール・水泳)
小学生の時期に、より活動的に様々な動きや、日頃体験できないスポーツを子どもたちに多く体験してもらい能力の幅を広げることを目的とする。

事業名	目的・内容	実施時期
子ども体づくり支援事業	平群町の各こども園に講師派遣して、この年代に必要な運動指導を実施した。 はなさとこども園 6月→25名 11月→21名 ゆめさとこども園 6月→42名、7月→19名 (年中、年長) 10月→各61名	通年
水泳教室	くまがしクラブとの共同事業「SPORTS & STUDY」として、小学生を対象とし、水泳教室を実施した。7月→9名、8月→10名。2クール、3日間	夏季

3) 健康体力づくり事業(健康保持増進)

生活習慣病予防や成人の健康保持増進のため、効果的に楽しみや興味を持って参加できる事業を実施した。有酸素運動や筋力運動等の運動で参加者の幅を広げた。20代～50代といったミドルエイジ(U-60)をメインターゲットとし、日常生活の中で、体を動かすことが減少してきているミドルエイジが特に注意しなければならない生活習慣病予防を健康体力づくり事業の核としてとらえ、予防とさらなる健康保持増進のため、効果的に楽しみや興味を持って参加できる、また、その他にも多種目の内容を展開することにより、運動することの楽しみを

得られるような事業を実施した。

事業名	目的・内容	実施時期
だれでもかんたん運動教室	平群町健康保険課の事業「メタボリックシンドローム予防教室（元気にここ教室）への講師協力を行った。参加者 262 名、約 21 名/回。	年 12 回

4) 元気 UP 高齢者事業(健康保持増進)

シニアエイジ(O-60)をメインターゲットに「健康長寿 県内一」を目指し、メタボリックシンドローム予防やロコモティブ予防(運動器症候群)に力を入れ、いつまでも自力で元気に日常生活が送れるように、体の機能を維持、向上できるような運動指導、また少しでも状態緩和のため有酸素運動や筋力運動のような体質改善できるよう事業を実施し、日常生活活動レベルを上げ、生活範囲と生活機能の向上を図った。

事業名	目的・内容	実施時期
だれでもかんたん運動教室	平群町包括支援センターの事業「介護教室」(元気アップ教室)への講師派遣を行った。受講者 225 名、約 20 名/回。	4 月～9 月 (11 回開催)

2 町有施設(体育/公園体育施設)指定管理事業

上記健康増進の普及及び健康づくりを促進する事業を実施するために、下記の施設の貸し出し業務等や施設管理を行った。

管理施設

- ① 平群健民運動場(管理棟、グラウンド)
- ② 平群町総合スポーツセンター(体育館、グラウンド、ウォーターパーク、テニスコート、防災施設)
- ③ 平群中央公園(管理棟、多目的・サブグラウンド、テニスコート、ゲートボール場)
- ④ 平群北公園(管理棟、テニスコート)
- ⑤ 梨本ゲートボール場(ゲートボール場)

[業務内容]

1) 一般利用及び事業の実施業務(施設の供用に関する利用者支援)

「平群町体育施設条例/施行規則」、「平群町都市公園条例/施行規則」に基づき、指定管理者は行政代執行者であることと公共施設の在り方を念頭に置き、当法人が利潤追求

に走り、特定の利用者及び団体に偏って施設の貸し出しを行うなど、利用者が不便・不利益を被ることのないよう公平、公正な業務を遂行するとともに、安全で快適な施設づくりレベルの向上を図った。また、平群町体育協会の加盟団体や平群町の公共的団体の大会及び県内外のスポーツ団体の大会実施や総合型地域スポーツクラブ「くまがしクラブ」の教室開催にあたって、施設の減免貸与等の協力を行った。

2) 利用許可受付と利用料徴収及びバランスのとれた施設利用調整

施設利用に関しては、利用者の利用申請受付業務を窓口で行うとともに利用料の徴収を行った。また、奈良県と県内市町村において、インターネットを利用してパソコンや携帯電話から、各種申請・届出、講座・イベント申込ができるサービス(電子申請サービス)や公共施設の空き状況の照会や予約申込み、また各施設で開催される講座の申込みができるサービス(施設予約サービス)奈良電子自治体共同運営システム「e 古都なら」を平群町体育施設予約にも導入によって(平成 21 年度導入)、利便性が向上し利用される方も増加している。平群町情報処理担当者との意見交換も行い、より利用しやすいシステムの調整を適宜実施した。また、平群町教育委員会、平群町体育協会の加盟団体、一般利用者との間で円滑に施設貸出を進め、より多くの町民の満足が得られるように施設利用全体のバランスの調整を図った。

3) 「おもてなしの心」あふれるサービスと施設 PR

施設利用者、特に子ども・中高齢者・障がい者が安心して利用できるように、積極的に利用者とコミュニケーションをとり、要望・意見・健康状態を知り利用者とのコミュニティを大切に対応した。また、潜在的に利用者が持っているニーズを察知し、規則や公平・公正な立場から逸脱することなくニーズにあわせた環境づくりを行った。トレーニング・健康のための運動方法に関する相談も随時、専門知識をもつ従業員が丁寧に指導を行い、利用者の運動継続意欲を高め、地域住民の健康増進を図った。また、より多くの平群町民に施設利用してもらうためにインターネットホームページを開設して情報提供を行うとともに、自主事業やイベントの内容については、インターネットツールや新聞折込によるチラシの配布や町内各公共施設にポスターを掲示するなど、効率的に利用者拡大を図った。

4) 安全な施設維持のための保守点検

定期的に施設の巡回、巡視点検を行い、不具合箇所等を早期に発見に努め即座に従業員で対応した。施設美観・清潔維持のため、トイレ清掃やフロア清掃を随時実施して、常に清潔さを保ち、週 1 回の休館日には、アリーナの床面のモップ掛け及びモップの交換、トレーニング室清掃等、館内全体の清掃を実施した。外観や植栽管理に関しても計画的に作業を行い、周辺環境の調和を目指し、常に美化意識を持った管理を行った。また、施設の安全利用や予防や保全のため、電気設備や浄化槽・プールの設備に関しては、専門業

者による定期点検や法定点検を実施した。

〔研修計画〕

従業員の共通理解と利用者への公平性を保つために定期ミーティングを実施した。内容は、各セクションにおける日頃の業務に対しての従業員のフィードバック、それに対するリマインド、正確な情報のシェアリング、また、業務内容の確認や課題、タイムスケジュール等、日々の従業員の動きと利用者状況、問題のチェック等を行った。これにより、窓口や現場での接遇向上や運動器具や作業道具の取扱等について従業員の資質を高めた。

ミーティング内容

- ①事務関係(料金徴収・施設予約/受付・利用団体認識)
- ②運営関係(業務方針・月間計画)
- ③安全関係(AED 使用講習・人工呼吸・応急手当)
- ④設備関係(体育器具、消防設備)

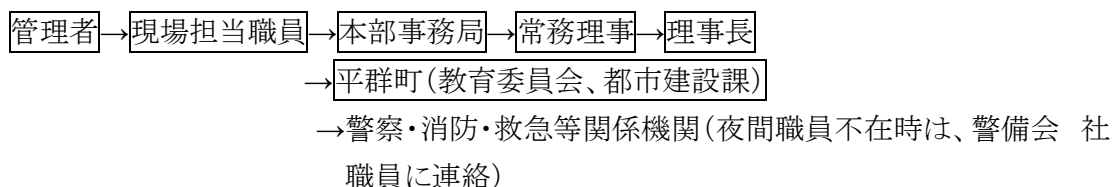
運動技能研修内容

- ①高齢者に対する運動指導方法
- ②特定健診・保健指導における運動指導
- ③効果的なトレーニング方法の指導法
- ④子どもの身体づくりに関する指導法

〔緊急時の対応〕

(1) 防犯に対する態勢

日常は必ず各セクションへ従業員を配置し定期的な巡回を行って防犯、防災に備えた。施設利用供用時間外(夜間)については、警備会社へ警備業務を委託した。緊急時(事件、事故)には情報の集約と緊急連絡網により組織内連絡・関係機関への連絡を速やかに行うとともに、利用者の安全確保や応急処置等現場での対応にあたる。すでに館内に AED(自動対外式除細動器)を設置し、初動である第 1 次対応は整備済み。



併せて、日頃より町内の消防や警察の関係機関と連絡連携を密にとり、緊急時の対応をスムーズに行う。中央公園、北公園は 24 時間開放(駐車スペースは除く)しており、園内は自由に入出入りできるため、園内では、なるべく死角をつくらない様な適正な草刈や剪定を行い防犯と景

観を兼ねそろえた施設づくりを行った。また、警察や青少年補導委員会の定期巡回とも連携を取り、地域一体となった対策を行った。

○災害に対する態勢

- ・台風接近等による大雨・暴風の被害が予想される悪天候時は、気象・災害情報に細心の注意を払い、利用者の安全確保を第一に考え、施設開放や事業の開催可否を協議において決定する。
- ・大規模地震等による自然災害時には、スポーツセンターは平群町の緊急避難場所及び防災拠点に指定されていることから、平群町の災害対策本部と連携を図り、情報収集すると共に、被災者や災害対策関係者の受け入れに対応し、現場での支援・協力態勢を構築するとともに、停電を想定した防災訓練を行った。
- ・緊急時を想定して飲料業者と緊急時に被災者に飲料無料提供の協定を締結し、災害時対応型(ライフラインベンダー)の飲料自動販売機を設置している。

(2)その他の緊急事態に対する態勢

その他緊急事態に備え、通常(夜間を除く)は、従業員が常駐しており、有事の際はそこから速やかに現場へ駆けつけて、即座に有事に対応する。

- ・防災備品を専用物置内に入れ常備・常設(消費期限があるものは適宜交換)

①総合スポーツセンター(設置場所:体育館 1F 館外北側)

ヘルメット 5 個、軍手 6 双、タオル 10 枚、懐中電灯 3 個、予備電池単 3 形 8 個、笛 1 個、非常用毛布 6 枚、飲料水 520cc×24 本、非常用食料カンパン 1 缶、緊急連絡先一覧 1 枚、地域防災マップ 3 枚、非常用雨具 5 枚、ブルーシート 1 枚、ガスバーナー 1 個、予備燃料木炭 1 ケース、ロープ 1 個、ウェットティッシュ 1 個、トイレトペーパー 9 ロール、ガムテープ 1 個、食品ラップ 1 本、ゴミ袋 90ℓ 10 枚、救急箱(カット綿・ガーゼ・三角巾・包帯・コットン・サージカルテープ・絆創膏・綿棒・オキシドール・鎮痛剤・胃腸薬・風邪薬・熱さまシート・ハサミ・トゲ抜き・生理用品)

②中央公園(設置場所:管理棟外北側)

ヘルメット 5 個、軍手 6 双、タオル 10 枚、懐中電灯 3 個、予備電池単 3 形 8 個、非常用毛布 3 枚、非常用雨具 5 枚、ブルーシート 1 枚、緊急連絡先一覧 1 枚、地域防災マップ 2 枚、ゴミ袋 90ℓ 10 枚、笛 1 個

③北公園(設置場所:管理棟外西側)

ヘルメット 5 個、軍手 6 双、タオル 10 枚、懐中電灯 3 個、予備電池単 3 形 8 個、非常用毛布 3 枚、非常用雨具 5 枚、ブルーシート 1 枚、緊急連絡先一覧 1 枚、地域防災マップ 2 枚、ゴミ袋 90ℓ 10 枚、笛 1 個

[業務連携]

総合スポーツセンター及び中央、北公園の夜間管理及び各施設の施設管理作業(草刈り、清掃等)の一部を「公益社団法人」である平群町シルバー人材センターへ業務委託することで、同センターの業務増加、ひいては平群町在住の高齢者である会員の方々の就労できる場の提供拡充を行い、社会参加に向け積極的に連携を図った。

■経年劣化による現状

【平群町総合スポーツセンター】

体育館 →

- ・アリーナ床面摩耗による滑り
- ・館内天井の防水シート漏水

ウォーターパーク→

- ・流水・25m・着水・子どもプール濾過ポンプ配管漏水
- ・プールサイド防滑塩ビシート剥がれ
- ・着水プール床面、地下水による隆起
- ・場内シャッター故障
- ・スライダー揚水ポンプ配管漏水
- ・場内監視モニター故障
- ・幼児用プールの遊具及びスライダー使用不可
- ・西側擁壁面の塗装劣化
- ・ゲートシャワー故障

[減免利用における協力について]

平群町のスポーツ振興や、平群町民の健康増進を目的とされ実施される事業やスポーツ施設利用に対して住民サービスの一環として施設利用減免を許可される際、補てん等を求めず協力を継続実施した。

[利用者サービス・利用促進のための取組み]

現在、管理運営する体育施設の利用実績において利用率の低い曜日・時間帯の利用率アップを図った。

・「個人参加型プログラム」

個人又は小グループが気軽に利用できるように、定期的に設定した曜日・時間帯のアリーナを分割して貸し出すプログラムを提供した。153件/696名の利用。

・「利用率アップキャンペーン」

ランダムに設定した曜日・時間帯を利用予約された際に、くまがしステーションで利用できる「クーポン券」を発行した。一般利用/27件、減免利用/7件。

平成29年度 体育施設別利用状況 (単位)

		メインアリーナ		サブアリーナ		会議室		総合グラウンド		健民グラウンド	
		29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度
4月	利用単位数	118	123	53	56	354	297	24	31	29	26
	利用率	75.6%	78.8%	67.9%	71.8%	37.8%	31.7%	27.9%	36.0%	48.3%	43.3%
5月	利用単位数	121	128	42	46	264	267	30	39	27	21
	利用率	77.6%	82.1%	53.8%	59.0%	28.2%	28.5%	34.1%	44.3%	43.5%	33.9%
6月	利用単位数	128	127	55	51	372	406	18	25	21	17
	利用率	82.1%	81.4%	70.5%	68.0%	39.7%	43.4%	20.9%	29.1%	35.0%	28.3%
7月	利用単位数	124	130	52	50	353	425	34	26	23	29
	利用率	79.5%	80.2%	66.7%	61.7%	37.7%	43.7%	38.6%	29.5%	37.1%	46.8%
8月	利用単位数	118	112	37	39	306	304	47	85	22	21
	利用率	72.8%	71.8%	45.7%	50.6%	31.5%	32.5%	52.8%	96.6%	35.5%	35.0%
9月	利用単位数	124	126	62	59	348	359	28	32	28	27
	利用率	79.5%	80.8%	82.7%	75.6%	37.2%	38.4%	32.6%	37.2%	46.7%	45.0%
10月	利用単位数	143	135	67	68	625	553	33	42	21	26
	利用率	91.7%	86.5%	85.9%	87.2%	66.8%	59.1%	37.5%	47.7%	33.9%	41.9%
11月	利用単位数	140	132	56	61	495	435	34	34	27	16
	利用率	89.7%	84.6%	71.8%	78.2%	52.9%	50.3%	39.5%	39.5%	45.0%	26.7%
12月	利用単位数	107	102	34	48	274	341	17	23	20	15
	利用率	81.1%	77.3%	51.5%	72.7%	34.6%	43.1%	23.0%	31.1%	38.5%	28.8%
1月	利用単位数	98	103	40	47	251	309	19	35	11	19
	利用率	74.2%	78.0%	60.6%	71.2%	31.7%	39.0%	25.7%	47.3%	21.2%	36.5%
2月	利用単位数	108	109	47	48	347	368	17	19	21	14
	利用率	75.0%	75.7%	65.3%	66.7%	40.2%	42.6%	21.3%	23.8%	37.5%	25.0%
3月	利用単位数	141	136	49	51	334	299	43	39	37	36
	利用率	87.0%	82.9%	60.5%	63.0%	34.4%	30.8%	48.3%	43.8%	59.7%	58.1%
合計	利用単位数	1,470	1,463	594	624	4,323	4,363	344	430	287	267
	利用率	80.5%	80.0%	65.2%	68.8%	39.4%	40.3%	33.5%	42.2%	40.2%	37.4%
		中央グラウンド		総合テニスコート		中央テニスコート		北テニスコート		トレーニング室(人)	
4月	利用単位数	25	18	297	286	152	129	252	229	1,077	941
	利用率	29.1%	30.0%	50.9%	49.0%	44.2%	53.8%	73.3%	66.6%	41.2	37.6
5月	利用単位数	23	22	322	311	166	138	262	255	1,169	1,107
	利用率	26.1%	35.5%	53.7%	51.8%	47.2%	57.5%	74.4%	72.4%	45	42.6
6月	利用単位数	25	23	261	260	141	96	235	193	1,335	1,106
	利用率	29.1%	38.3%	44.7%	44.5%	41.0%	40.0%	68.3%	56.1%	51.3	42.5
7月	利用単位数	24	28	337	329	177	199	270	219	1,242	1,206
	利用率	27.3%	31.1%	56.2%	54.5%	42.8%	47.6%	65.2%	61.5%	47.8	44.7
8月	利用単位数	20	19	369	381	146	202	220	238	1,213	1,180
	利用率	22.5%	21.6%	61.1%	63.5%	34.9%	48.3%	52.6%	67.6%	44.9	45.4
9月	利用単位数	24	27	272	265	175	167	242	232	1,278	1,211
	利用率	27.9%	31.4%	46.6%	45.4%	43.3%	41.3%	59.9%	67.4%	49.2	46.6
10月	利用単位数	16	29	220	290	91	189	187	278	1,190	1,194
	利用率	18.2%	33.0%	36.7%	48.3%	25.9%	53.7%	53.1%	79.0%	45.8	44.2
11月	利用単位数	28	27	297	268	153	170	249	260	1,043	1,068
	利用率	32.6%	31.4%	50.9%	45.9%	44.5%	49.4%	72.4%	75.6%	47.4	41.1
12月	利用単位数	22	18	243	245	132	141	212	217	1,008	903
	利用率	29.7%	24.3%	48.2%	48.6%	44.6%	47.6%	71.6%	73.3%	45.8	41
1月	利用単位数	18	11	219	224	109	109	199	209	980	1,018
	利用率	24.3%	14.9%	43.5%	44.4%	36.8%	36.8%	67.2%	70.6%	44.5	46.3
2月	利用単位数	19	22	224	241	133	99	225	235	1,080	1,166
	利用率	23.8%	27.5%	41.3%	44.3%	41.6%	30.9%	70.6%	73.4%	45	48.6
3月	利用単位数	27	21	270	327	146	54	245	294	1,099	1,171
	利用率	30.3%	23.6%	44.7%	54.1%	41.0%	15.2%	68.8%	82.6%	40.7	43.4
合計	利用単位数	271	265	3,331	3,427	1,721	1,693	2,798	2,859	13,714	13,271
	利用率	26.7%	28.6%	48.2%	49.5%	40.7%	43.5%	66.5%	70.5%	45.7	43.7

平成29年度 ウォーターパーク集計表

開場期間 7月15日(土)～8月31日(木) ※実質45日間
 内、休場日 7月18日(火)、8月7日(月)、8月21日(月)
 開場時間 午前9時30分～午後4時30分

		平成29年度	平成28年度	平成27年度	対前年比	
開場日数		45 日	44 日	42 日	1 日	
町内	大人	7,682 人	7,684 人	6,705 人	▲ 2 人	100.0%
	小人	8,608 人	8,694 人	7,398 人	▲ 86 人	99.0%
	シニア	183 人	238 人	227 人	▲ 55 人	76.9%
	合計	16,473 人	16,616 人	14,330 人	▲ 143 人	99.1%
町外	大人	2,068 人	1,671 人	1,733 人	397 人	123.8%
	小人	1,766 人	1,466 人	1,489 人	300 人	120.5%
	合計	3,834 人	3,137 人	3,222 人	697 人	122.2%
有料団体入場者数		162 人	223 人	134 人	▲ 61 人	72.6%
半額入場券	大人	56 人	36 人	31 人	20 人	34.9%
	小人	172 人	185 人	181 人	▲ 13 人	155.4%
	合計	228 人	221 人	212 人	7 人	74.6%
有料入場者数		20,697 人	20,197 人	17,898 人	500 人	102.5%
幼児入場者数 (小学生未満、無料)		4,536 人	4,151 人	3,860 人	385 人	109.3%
無料入場券使用者数		176 人	180 人	144 人	▲ 4 人	97.8%
身体障害者入場者数 (付添含む)		138 人	744 人	611 人	▲ 606 人	18.5%
総入場者数(水泳教室受講者を含まない)		25,547 人	25,272 人	22,513 人	275 人	101.1%
水泳教室受講者 (1クール4日間)		19 人	19 人	18 人	0 人	100.0%
一日平均入場者数		567.7 人	574.4 人	536.0 人	▲ 7 人	98.8%
ロッカー使用料		324,300 円	369,650 円	413,950 円	▲ 45,350 円	87.7%
入場料収入 (団体含)		14,496 千円	13,777 千円	12,485 千円	719 千円	105.2%
生駒市民入場者数	大人	3,526 人	4,287 人	3,075 人	▲ 761 人	82.2%
	小人	3,844 人	4,321 人	3,040 人	▲ 477 人	89.0%
	合計	7,370 人	8,608 人	6,115 人	▲ 1,238 人	85.6%

※平成29年度、水泳教室は2クール各3日間実施

運営報告

今年度も、大きな事故もなく、なんとか安全に業務遂行できたが、平成 5 年の開場以来、施設全体の経年劣化が進捗している状況ではあり、計画的な大規模改修が必須。昨年度から、スライダー用のカヌーボートの生産中止に伴い 1 レーンを閉鎖しており、今年度も継続閉鎖。

あらたに、今年度より平群町体育施設条例改正され、身障者の利用料金が町内在住の方のみ無料となり、身障者の利用が大幅な減となった。利用者の飲酒に関しては、酒気帯びの事故を未然に防ぐ為、新たに看板を設置し、開園時に入場門、入口シャワーゲートに監視員を配置し、飲酒の取り締まりを徹底・強化しているが、いまだに持ち込みも多く、事前に告知する対応が課題。

郡山保健所よりジャグジープールのレジオネラ菌発生の危険性の指摘があり、今年度より閉鎖。生駒市との公共施設の相互連携に関する協定により、生駒市民の来場者数が年々増加傾向

向にあるが、「生駒市民」を証明できるものの提示が曖昧なため券売業務に年々、支障をきたしている。平群町民カード同様の運用など、生駒市との協議及び調整が必要。駐車スペースの確保については、例年、開場期間中は、総合グラウンドを臨時駐車場としていたが、今年度よりグラウンド利用が出来るように、土・日・祝日及びお盆以外は解放した結果、グラウンド施設利用の促進に繋がった。

II 地域文化の振興を促進する事業(公益目的事業2)

地域住民参加型で創意工夫しながら、平群町の活性化や文化振興を目的としながら下記の事業を展開する。

1 事業計画

事業名	目的・内容	実施時期
へぐり盆踊り	地域の文化として根ざした特有の「平群夢音頭」の普及を目指すものであり、管理施設である健民運動場を会場とし開催した。平群町を含めた各種関係団体で実行委員会を構成し、当法人は運営事務局を担当。内容は、平群町内の子どもで構成されたチームによるダンスショー、ビンゴゲーム、子ども盆踊り、地元の方やプロの音頭とりによる盆踊りを実施した。約 2,900 名の参加。	8 月
へぐりふれあいアート	総合スポーツセンターやくまがしステーションのスペース活用として、1F 多目的スペース等に絵画、写真等を展示し、来館者に鑑賞してもらい知識や情緒を高めることを目的とし、実施した。	通年

III 農業の健全な発展及び地域資源の合理的な利用を推進する事業(公益目的事業3)

1 事業計画

1)とれたて市

- ・「生産者の会」と、とれたて市部分の運営委託契約を結び運営を行った。また、「生産者の会例月役員会議」を開催し、日常運営状況のチェック及び農産物等の品質安定、向上を図った。
- ・「安心・安全・新鮮・おいしい」をコンセプトに品質の安定・向上を徹底的に探求し続け、生産者の会と積極的にコミュニケーションを図り売り場の活性化を図った。

- ・お盆／年末の繁忙期は、一時に集中する混雑緩和のため通常営業開始時間より早く営業を開始した。
- ・「平群特産品開発事業」を平群町と協働して進めた。町内の遊休農地を活用した農産物も有効活用し、平群町のプライベートブランドの商品化を目指した。
- ・奈良県と協働する農産物直売所として「奈良県農産物直売所協働協定」を締結。(平成21年度)また、協定締結とあわせて、協定直売所のネットワーク「地産認匠 TEAM 奈良」を結成し、ネットワークブランド「地の味 土の香」が立ち上がっている。

(安全性の強化:トレーサビリティの強化)

生産者に出荷農産物の栽培履歴提出の協力を積極的に求め続け、栽培履歴の提出義務化(トレーサビリティの強化)に向けた、より具体的な指導を実施し、安定した提出率を維持している。

(品質安定及び向上)

- ・とれたて市内に専門員を配置し、利用者にレシピと共に簡単な調理方法説明、出荷時期等の質問に対して迅速・丁寧な対応、また生産者には出荷当日における追加納品の声掛けや品質や価格に対する指導等を行った。
- ・出荷された農産物の品質チェックを開店前・営業時間中、徹底的に行い、品質の悪いものについては即時に売り場から排除したうえで出荷生産者に厳重注意・指導し、再発の抑制を行い、改善されない生産者に対しては「出荷停止」又は「除名」を生産者の会で決定し、処分を行い、品質の保持に努めた。
- ・生産者の会主導で生産者向けの「品質向上講習会」を適宜開催し生産者自らの生産農産物・花卉の品質安定を図った。

(出荷量安定、品目の充実)

- ・システム導入により出荷農産物の種類、量を管理し、当日出荷されている生産者に売上額、売上数量をリアルタイムでメールを配信している。また、とれたて市全体の月毎売上データ(品目別、数量等)を生産者に提供した。

(コストパフォーマンスの安定化)

お客様に納得して購入していただけるリーズナブルな価格設定で販売を行った。また、加工品をはじめとした商品の付加価値(コンセプトや地元らしさ)を積極的にお客様に伝えていくことで、より高い満足度を得ていただける環境を構築した。

(接客・接遇の強化)

アンケートボックスを設置し、日頃からお客様の声を形に変える仕組みの構築を図った。従業員の接遇研修を計画的に実施し、思いやりのある接客・接遇でリピーターの獲得、集客数増を目指した。

(販売演出)

- ・生産者の会との共催イベントを積極的に開催し、お客様と生産者のふれあいイベントの企画や生産者の顔写真の掲示などを行い、顔が見える安心・安全な売り場づくりを行った。

- ・“旬”の野菜を使った試食、食べ方などのレシピを用意。(適宜)
- ・“旬”のコーナーの設置を中心に、お客様が手に取りやすく、農産物を見るだけで季節の移ろいを感じられる演出陳列を行った。
- ・清掃の行き届いた清潔感のある陳列による売り場づくりを行った。

事業名	内容	実施状況
くまがし講座	地域の食材・農産物を使用し「パン教室」、「お菓子教室」などを展開し、地域性を身近に感じてもらい日常的に来場してもらうことを目的とし実施した。	通年
道の駅タイヤアップイベント事業	へぐり時代祭りと連動して「道の駅須崎」の鯉のわら焼き(たたき)実演販売を実施した。	4月
いちご狩り	平群町特産のいちごのPRとして、とれたて市登録生産者のビニールハウスにて開催した。 4・5月は1,952名の参加。	2月～5月
ゴールデンウィークイベント	期間中、融通念仏寺(大阪市平野区)にてPB商品のPR販売を実施した。	5月
ぶどうフェア	とれたて市の売場内にて平群特産ぶどうの試食販売を実施した。	6月
メロンフェア	※近年栽培量減のため未実施。	
海の日&親子の日フェア	来場者へPB商品のPR販売等を実施した。	7月
すいかまつり	※近年栽培量減のため未実施。	
くまがし創業祭	日ごろの感謝の意を込め、お客様への還元を目的に、平群町産野菜の詰め放題、平群特産のいちご・ぶどうを使用したオリジナルソフトクリームを特別価格で販売、PB商品のプレゼント等を実施した。	8月
彼岸フェア	夏秋季の小菊生産量日本一の町として、花の需要期であるこの時期に、より多くのお客様を迎えることを目的にPB商品を中心としたPR販売を実施した。	9月
プライベートブランド商品創作	地産地消を目的として、地元で収穫された食材を利用したプライベートブランドの商品を創作している。手づくりみそ、おかずみそ、長屋くん左近くんまんじゅう、焼酎(里の恵)ケーキ、いちごジャム、塩ポン酢、しいたけ昆布などの創作及び販売を実施した。	通年
週末ふるまい	生産者の会と協働し、季節のとれたて市の農産物のPRを兼ね、ふるまいを実施した。	適宜

収穫体験	いちご狩り体験以外の時期を対象に、平群町内で作付けされた農産物(さつまいも)の収穫体験を実施した。	10月
へぐり秋の収穫祭	今年度は、国民文化祭として、ふるまい及び出店協力を行った。	11月
新春季節特産品フェア	新年の喜びをお客様と共有し、ぜんざいの振る舞いや福袋の販売などで年始のおもてなしを実施した。	1月

2) 特産品コーナー

利潤だけにとらわれすぎずに地域団体の活性化や地域商業団体、小売店の発展に協力・連携する売り場づくりを行った。

(地域団体、町内業者との共存)

- ・地域団体、町内業者の活性及び育成を図るため、売店商品の仕入れや PR 特設コーナーの設置などを積極的に行った。福祉作業所の「特定非営利活動法人 大空の家」を中心とした福祉作業所の PR 及び商品販売コーナーを設置済。「信貴山」コーナー等もさらなる充実を図った。

(プライベート商品)

- ・平群町で採れる農産物を使用した平群町開発商品並びにくまがしプライベート商品と奈良県でブランド力のある特産品を中心とした厳選商品のラインアップと特設コーナーの設置を行い PR 販売及び生産量の安定を図った。
- ・日本酒「平群」大吟醸、純米酒【平群産ヒノヒカリを使用】
- ・里の恵(芋焼酎)【遊休農地解消モデル事業で栽培したサツマイモを使用】
- ・漬物(甘酢漬／醤油漬)【遊休農地解消モデル事業で栽培した大根を使用】
- ・漬物(きゅうり醤油漬)【平群産きゅうりを使用】
- ・幸福の梅酒(梅酒)【平群町内の休眠耕作地で採れた梅を使用】
- ・平群のしいたけ昆布【平群産しいたけを使用】
- ・くまがし塩ポン酢【平群産しいたけを使用】
- ・てづくりみそ【上庄加工部会に製造を依頼しブランド化に成功】
- ・おかずみそ【同様】
- ・こうじ浅漬けの素【同様】
- ・長屋くん左近くんまんじゅう【平群町イメージキャラクター「左近くん、長屋くん」の PR として「第一回へぐり時代祭り」の開催に合わせて商品化】
- ・焼酎(里の恵)ケーキ【里の恵(芋焼酎)を材料に使用】
- ・古都華ジャム【くまがしステーションで大人気のいちご「古都華」を使用】
- ・いちごジャム【平群産いちご「紅ほっぺ」を使用】
- ・乾燥野菜・果物(ドライベジタブル)【平群町(奈良県産)の農産物をふんだんに使用】

- ・みそ汁の具(にんじん、しいたけ、たまねぎ、※ごぼう、なすび、白菜、菜花、小松菜、まこもたけを季節別に替える)

- ・乾し椎茸【平群産しいたけを使用】

(接客・接遇の強化)

アンケートボックスを設置し、日頃からお客様の声を形に変える仕組みの構築を図った。従業員の接遇研修を計画的に実施し、思いやりのある接客・接遇でリピーターの獲得、集客数増を目指した。

(販売演出)

- ・お客様に愛着を持ってもらうために、地域団体や町内業者との共催イベントを開催し、お客様と生産者のふれあいイベントを企画し実施した。
- ・“旬”のコーナー設置を中心に種類別で陳列し、お客様が手に取りやすく商品を見るだけで季節の移ろいを感じられる演出陳列を行った。
- ・清掃の行き届いた清潔感のある陳列による売り場づくりを行った。

3) レストラン・できたて工房

(品質安定及び向上)

材料には旬の平群産(奈良県産)の野菜をふんだんに使用し、手づくりで温もりのある老若男女が楽しめるメニューづくり(とれたてランチ)を行った。

また、できたて工房では平群特産のいちご・ぶどうを使用したオリジナルソフトクリーム、古都華ジュース・ぶどうジュースをはじめ、古都華ドーナツ・ゆずドーナツ、更には、平群野菜をふんだんに使用した「くまがし焼き」の販売を行った。

(幅広いターゲットの獲得)

地元で愛されるお店づくりを目指し、特に平日の集客数増を目指した。

(地域活動団体への協力)

地域団体の活動拠点としての利便性の向上を図るため、各団体で開催されている「総会」、「会合」、「研修」を当施設の研修室等での開催利用の促進を図った。

(接客・接遇の強化)

アンケートボックスを設置し、日頃からお客様の声を形に変える仕組みを構築した。リピーターの獲得、集客数増を目指し、「一生懸命さ」がお客様に伝わるような接客を目指し、店舗すべての分野が連動し協調できる雰囲気作りを行った。

[イベント等への協力]

- ・平成 22 年より実行委員会形式で運営する「へぐり時代まつり」に事務局として参加した。前日からの駐車場封鎖や模擬店出店、当日の現場管理、警備員費用の一部負担等の協力を行った。
- ・町内団体等が実施する平群町平和委員会署名/募金活動、赤い羽根募金活動に伴う活動場

所の提供の協力を行った。

- ・くまがしステーションで切手類の販売、コミュニティバスの回数券/フリー乗車券を販売した。

2 町有施設(活性化センター)指定管理及び道の駅施設受託管理事業

・町有施設(活性化センター)指定管理事業

農業の健全な発展及び地域資源の合理的な利用を推進する事業を実施するために、平群町より指定管理を受けた活性化センター(くまがしステーション)の研修室及び料理実習室の利用貸し出し業務、維持管理業務等を行った。

・道の駅施設受託管理事業

農業の健全な発展及び地域資源の合理的な利用を推進する事業を実施するために、平群町より受託を受けた「道の駅大和路へぐり」の管理業務を行った。

[施設の利用許可、料金に関する業務]

「平群町活性化センターの設置及び管理に関する条例/施行規則」に基づき、使用者・利用者の公平・公正・平等な利用を確保し、丁寧かつ迅速な対応で業務を行った。

[施設の管理に関する業務]

- ・管理責任者及び防火管理者を配置し、火災等の事故防止に努めた。消防設備点検を毎年実施し、消防訓練実施計画書と共に消防署に報告を行うと同時に訓練を実施し、平群町地域防災計画において「避難所」に指定されていることから緊急時の対応を整備した。
- ・施設から発生する廃棄物やゴミの減量化及び分別を確実にを行い再資源化を図った。

[施設及び設備の維持管理に関する業務]

館内外の清掃は毎日、定時及び適宜実施し、除草や植栽などの手入れについては季節、状況を考慮し定期的に変更を実施した。機械設備については、業者による保守点検と従業員が日々チェックを行った。

[研修室、料理実習室]

- ・地域住民、団体の一人でも多くの方々に当ステーションで活動してもらえるように、ホームページ等を利用し利用促進 PR を行い、総会、研修活動、その他の会合拠点としての利用率の向上を図った。
- ・自主事業のくまがし教室を開催した。

[付帯施設の管理]

- 道の駅(トイレ部分)

- ・お客様に気持ち良く利用できるよう毎日、営業時間前・営業時間中に従業員で清掃を行った。
- ・ドライバーの休憩スポットとしての役割を果たすため、建物沿いに飲料等の自動販売機を設置している。

○第1・2 駐車場

- ・お客様に気持ち良く来場していただけるように毎日、営業時間前・営業時間中に従業員でゴミ拾いとその他不備がないようにチェックを行った。
- ・特に週末の午前中や年末年始などの繁盛期には警備員を配置し、来場者の平群バイパスからの入退場及び駐車場内の誘導で安全確保に努めた。
- ・当該施設利用目的外の駐車や夜間の不審車両の駐停車排除を県土木事務所、警察、平群町と連携をとり、適宜対応した。
- ・第3 駐車場が閉鎖となったが、新たに第1 駐車場横敷地に駐車スペースが増設された。

〔情報発信コーナー〕

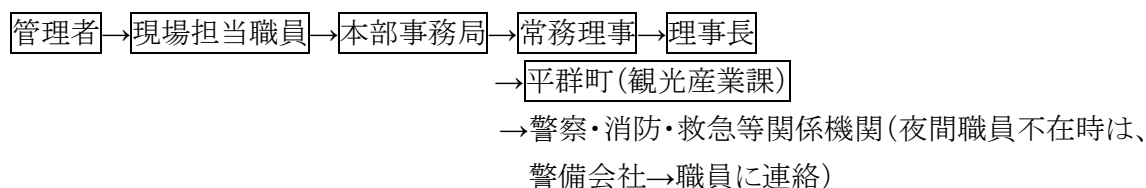
「へぐり」の魅力を一人でも多くの方に知っていただくため、平群町観光産業課と密な連携をとり、くまがしステーション 1F 西側に設置の「情報発信コーナー」を最大限活用し、最新の地域情報や交通情報など、ドライバーを含めた来場者に提供した。

また、平群町の歴史・観光をガイドされている「平群町観光ボランティアガイドの会」の活動拠点に沢山の観光客が訪れるくまがしステーションを提供し協力を行った。ガイドの方々と共に観光客への「平群町」の PR を積極的に行った。また、従業員にはボランティアガイドの方々から日々学び、研修も交えながら今以上に地域の観光・歴史の情報を説明できるよう能力及び資質の向上を図った。1,965 名/年の利用。

〔緊急時の対応〕

(1) 防犯に対する態勢

日常は必ず各セクションへ従業員を配置し定期的な巡回を行って防犯、防災に備えた。施設利用供用時間外(夜間)については、警備会社へ警備業務を委託している。緊急時(事件、事故)には情報の集約と緊急連絡網により組織内連絡・関係機関への連絡を速やかに行うとともに、利用者の安全確保や応急処置等現場での対応にあたる。すでに館内に AED(自動体外式除細動器)を設置し、初動である第1 次対応は整備済み。



併せて、日頃より町内の消防や警察の関係機関と連絡連携を密にとり、緊急時の対応をスムーズに行う。駐車場は 24 時間開放しており、自由に入出りできるため、なるべく死角をつくらない様な適正な草刈や剪定を行い防犯と景観を兼ねそろえた施設づくりを行った。また、警察や青少年補導委員会の定期巡回とも連携を取り、地域一体となった対策を行った。

○災害に対する態勢

- ・台風接近等による大雨・暴風の被害が予想される悪天候時は、気象・災害情報に細心の注意を払い、利用者の安全確保を第一に考え、施設開放や事業の開催可否を協議において決定する。
- ・大規模地震等による自然災害時には、活性化センターは平群町の緊急避難場所及び防災拠点に指定されているので、平群町の災害対策本部と連携をとり、情報収集すると共に、被災者や災害対策関係者の受け入れに対応し現場での支援・協力を行う。

(2)その他の緊急事態に対する態勢

その他緊急事態に備え、通常(夜間を除く)は、従業員が常駐しており、有事の際はそこから速やかに現場へ駆けつけて、即座に有事に対応する。

- ・防災備品を専用物置内に入れ常備・常設(消費期限があるものは適宜交換)

くまがしステーション(設置場所:1F 倉庫)

ヘルメット 5 個、軍手 6 双、タオル 10 枚、懐中電灯 3 個、予備電池単 3 形 8 個、笛 1 個、非常用毛布 6 枚、飲料水 520cc×24 本、非常用食料カンパン 1 缶、緊急連絡先一覧 1 枚、地域防災マップ 3 枚、非常用雨具 5 枚、ブルーシート 1 枚、ガスバーナー 1 個、予備燃料木炭 1 ケース、ロープ 1 個、ウェットティッシュ 1 個、トイレットペーパー 9 ロール、ガムテープ 1 個、食品ラップ 1 本、ゴミ袋 90ℓ 10 枚、救急箱(カット綿・ガーゼ・三角巾・包帯・コットン・サージカルテープ・絆創膏・綿棒・オキシドール・鎮痛剤・胃腸薬・風邪薬・熱さまシート・ハサミ・トゲ抜き・生理用品)

IV スポーツ施設及び農業発展施設並びに地域資源の合理的な利用促進施設を管理運営するために生じる関連物品の販売(収益等事業1)

事業内容

1)ウォーターパーク売店事業

ウォーターパーク開場期間(毎年 7 月中旬から 8 月まで)におけるプールサイドの売店にて水中遊具や飲食物等の販売を行った。

2)くまがしステーション売店事業

くまがしステーションの館内において、農業発展などの物品以外の一般的なお土産品や町内外の手づくりの品、嗜好品の販売を行った。

その他

・自販機設置販売

総合スポーツセンター、中央公園、北公園、健民グラウンド、くまがしステーションで飲料等自動販売機設置販売を行った。

- ・くまがしステーションで切手類の販売、くまがしステーションで、切手類、平群町指定ゴミ袋等の販売を行った。

事業名	内容	実施状況
さくらまつり	文化協会と連携し、琴の演奏、茶席を実施した。300名の参加。	4月
母の日プレゼント	女性のお客様で先着 50 名様にレストランでは先着 30 名に平群特産の薔薇の花のプレゼントを行った。	5月
父の日イベント	未実施。	6月
秋まつり(観月祭)	平群町文化協会との連携によるお茶席を実施した。300名の参加。	9月
敬老の日イベント	敬老の日に合わせて、65 歳以上のお客様で先着 100 名によもぎもちのプレゼントを行った。	9月
フリーマーケットの開催	2 階研修室・1 階フロア等に於いて、フリーマーケットの開催を行った。	適宜
作品展・発表会	くまがしステーション 1 階ホールにおいて町内外の団体による作品展及び発表会の開催を行った。(写真展示・書道作品展示など)	適宜

・その他

〔情報の公開を行うための措置〕

公益法人では指導監督基準により次の業務及び財務等に関する資料を主たる事務所に備え置き、原則として一般の閲覧に供する。

- ①定款 ②役員名簿 ③事業報告書 ④収支計算書 ⑤正味財産増減計算書 ⑥貸借対照表
- ⑦財産目録 ⑧事業計画書 ⑨収支予算書

〔個人情報保護するための措置〕

「公益財団法人 平群町地域振興センター個人情報保護規程」に基づき、個人情報の適切な保護、管理に努め、職員が個人情報の処理を行うにあたって、個人データの安全性が図れるよう、必要かつ適切な監督を行う。

個人情報を取得する場合は、利用目的を明確にし、その達成に必要な範囲内において適切かつ公正な手段で行う。知り得た個人情報について、目的外に使用しない。

〔経費節減のための方策〕

1) 人件費

サービスを縮小させないよう配慮したうえでムダを省き、適切な定員管理を行った。

2) 備品、消耗品費

費目ごとに在庫及び支出管理を行い、計画的な購入を行った。

3) 外注費

外注費の価格算定根拠を明確にしたうえで、発注先の選定を行い複数年契約等を駆使し経費削減を図った。

4) 光熱水料費

季節毎の適切な室温の設定、貸室など使用していない部屋は、電灯及び空調の電源を確実に切る等の「ムダ」を徹底排除した。

V 理事会議決事項並びに認定報告事項

議案番号	件 名	結 果	開催年月日	議決・認定年月日
議案第 8 号	平成 28 年度公益財団法人平群町地域振興センター事業報告並びに決算報告について	原案可決	平成 29 年 5 月 24 日	平成 29 年 5 月 24 日
議案第 9 号	公益財団法人平群町地域振興センター特定費用準備資金の積み立てについて	原案可決	平成 29 年 5 月 24 日	平成 29 年 5 月 24 日
議案第 10 号	公益財団法人平群町地域振興センター第 1 回評議員会開催について	原案可決	平成 29 年 5 月 24 日	平成 29 年 5 月 24 日
議案第 11 号	公益財団法人平群町地域振興センター理事長及び常務理事の選定について	原案可決	平成 29 年 6 月 8 日	平成 29 年 6 月 8 日
議案第 12 号	平成 29 年度公益財団法人平群町地域振興センター上期事業報告並びに決算報告について	原案可決	平成 29 年 11 月 14 日	平成 29 年 11 月 14 日
議案第 13 号	基本財産の運用について	原案否決	平成 29 年 11 月 14 日	平成 29 年 11 月 14 日
報告第 2 号	公益財団法人平群町地域振興センター理事長及び常務理事の職務執行状況報告について	—	平成 29 年 11 月 14 日	—
議案第 1 号	公益財団法人平群町地域振興センターパートタイム職員就業規則の一部改正について	原案可決	平成 30 年 1 月 19 日	平成 30 年 1 月 19 日
議案第 2 号	公益財団法人平群町地域振興センター無期転換パートタイム職員就業規則の制定について	原案可決	平成 30 年 1 月 19 日	平成 30 年 1 月 19 日
議案第 3 号	公益財団法人平群町地域振興センターパートタイム職員育児・介護休業等に関する規則の一部改正について	原案可決	平成 30 年 1 月 19 日	平成 30 年 1 月 19 日
議案第 4 号	変更認定申請について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日

議案第 5 号	平成 30 年度公益財団法人平群町地域振興センター事業計画並びに収支予算について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日
議案第 6 号	平成 30 年度町有施設の指定管理に関する基本協定及び年度協定の締結について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日
議案第 7 号	平成 30 年度町有施設の管理に関する受託等の契約締結について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日
議案第 8 号	財団の基本金運用について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日
議案第 9 号	役員の選定について	原案可決	平成 30 年 3 月 27 日	平成 30 年 3 月 27 日
報 第 1 号	公益財団法人平群町地域振興センター理事長及び常務理事の職務執行状況報告について	—	平成 30 年 3 月 27 日	—

VI 行政機関届出事項

提出年月日	提出先	件 名	受理年月日
平成 29 年 5 月 30 日	平群町	平成 29 年度指定管理者事業報告書	平成 29 年 5 月 30 日
平成 29 年 6 月 28 日	奈良県	平成 28 年度事業報告等に係る提出書	平成 29 年 6 月 28 日
平成 29 年 6 月 30 日	平群町	平成 28 年度指定管理者事業報告書	平成 29 年 6 月 30 日
平成 29 年 11 月 31 日	奈良県	変更届出	平成 29 年 11 月 31 日
平成 30 年 1 月 25 日	奈良県	変更認定申請	平成 30 年 1 月 25 日

VII 役員名簿(平成 30 年 3 月 31 日現在)

理事長 中島 伊三郎

常務理事 岡田 仁

理 事 辻本 忠雄

理 事 出水 良一

理 事 向井 美典

理 事 西脇 洋貴

監 事 鈴木 一正